

# 豊橋技科大助教ら考案・実験

狭い生活道路や通学路を時速30\*以下で走行すると報酬がもらえる。豊橋技術科学大学建築・都市システム学系の松尾幸二郎助教らの研究チームが、交通死亡事故を減らすため、生活道路に優しいドライバーが得をする「速度遵守インセンティブプログラム」を考案した。実証実験では効果があつたという。

# 狭い道 ゆっくり走ると得するよ

安全な生活道路を実現するためには、交通量の削減や走行速度の抑制が重要になる。松尾助教らは、その実現のためドライバーが自発的に速度を30\*以下に落とすための手法として、報酬を与えるプログラムを考案した。生活道路に優しい運転をしているドライバーを褒める仕組みだ。

実験では、豊田都市交通研究所が開発したスマートフォンのアプリ「助言型の速度制御支援システム(ISSA)」を使用。走行している道路の最高速度の情報をはじめ、速度を超過した際の警告機能や1秒ごとの位置、走行速度などの情報が取得できる。

規制速度30\*以下の道路(ゾーン30)および最高速度規制標識がない幅員5.5m以下の狭幅員道路を生か道路と定義。プログラム

# 報酬で速度抑制「効果確認」

は、生活道路を時速30\*以下で走行した距離の割合が95%を超えると1日1000円の報酬が得られる。

昨年7月から約5カ月間、20人のドライバーがこのアプリを導入したスマホを貸与し、起動させながら運転してもらった。最初の2カ月は通常走行。次の2カ月は、20人中14人が報酬がもらえるプログラムを適用、残りの6人は通常走行をしてデータを比較した。

その結果、狭幅員道路では、時速30\*以下で走行した距離の割合が、通常走行時の45%からプログラム導入時は75%に、規制速度30\*以下の道路では同じく70%から90%に上昇し、高い速度抑制効果があることがわかった。また、助言型ISSAを使用するだけでもゾーン30区間でやや速度の抑制効果がみられたという。

松尾助教は「何かの得があることにより、速度抑制につながるプログラムの有効性が確認できた」とし、「今後は低速走行などの度合いに応じ自動車保険料や自動車税を割り引くなどのシステムができれば、事故の抑制にもつながる」と可能性を指摘する。(松永佳伸)

# 住民投票条例

## 新城の団体、庁舎

新城市の新庁舎建設基本設計について、市民の賛否を問う住民投票を求める「新庁舎見直しの住民投票を求める会」の前崎みち子代表は1日、地方自治法に基づき、9032人分の署名を添えて、定請求書を提出し、新庁舎を提案により実施されている。

# 紅紫色いっぱい 元気に遊んだよ

豊川

豊川市下長山町の田んぼでレンゲソウが満開を迎えた。1日は、地元の下長保育園と豊川東幼稚園の園児ら1000余人が訪れ、紅紫色の花のじゅうたんの中を元気に走り回っていた。



# 吉浜細工三英傑がポーズ

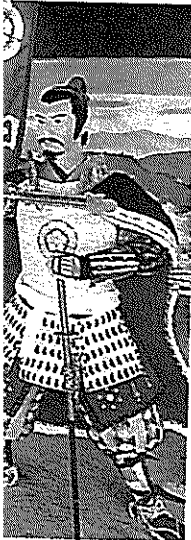
# 自慢の人形見に来て

高浜市の伝統工芸「吉浜細工人形」の今年の新作2場面が1日、完成した。織田信長、豊臣秀吉、徳川家康などをモデルとした力作が、8日から同市屋敷町の

柳池院と宝満寺で展示される。人形は1年間、火曜と雨天を除き、公開される。約350年前から伝わる吉浜細工人形は県の無形文化財。技術を継承する保存

会(杉浦務会長)の女性4人を含む18人が4月から作製してきた。

人形は等身大。衣装は竹で作った胴殻に紙を貼り、大理石の粒をのり付けして



色をつけ、貝殻や輪切りの竹、ヒノキの実、くるみなど自然素材で衣装をデザインした。信長はマントをはおり、地面に刀を突き立て采配をふるう勇壮な姿。秀吉、家康も刀を抜いて戦っている様子を再現した。

旧磯部邸にずらり 甲冑着て写真も